



# 福祉アクセシビリティに着目した ソーシャルワーク実践に関する研究

保健福祉学部 人間福祉学科  
准教授 越智 あゆみ (おち あゆみ)

連絡先 県立広島大学 三原キャンパス 3511号室  
Tel・Fax 0848-60-1156  
E-mail ochi@pu-hiroshima.ac.jp

専門分野： 精神保健福祉、ソーシャルワーク

キーワード： 福祉アクセシビリティ、相談支援システム、ソーシャルワーク実践、地域生活支援、自殺予防

## ● 主な取り組み・活動

○地域の中には、生活上の困難を抱えていても、どのように対処すべきかわからなかったり、自ら支援を求めて行動することに難しさのある人々があります。このような人々の生活ニーズを発見し、ニーズに応じた社会資源（機関、人、制度など）に結びつけるソーシャルワーク実践について、福祉アクセシビリティ（相談のしやすさ、利用のしやすさ）に着目して研究しています。

これまで取り組んできた実践研究や調査研究から、福祉アクセシビリティが確保された相談支援システムを構築していく際には、次のような課題にも十分配慮していく必要があります。

(1) 支援が必要な状況になっても相談に行かない理由の中には、困難な状況に直面していることへの戸惑いや葛藤、対処方法に関する情報不足、他の人に話すことへの抵抗感などが含まれます。

(2) 困っている状況が見えにくい場合には、周囲の人々が支援の必要性を認識できず、必要なサービスに結びついていないことがあります。

(3) 社会福祉法制度上の障害認定基準は、機能障害の程度が中心となっています。そのため、対人関係の形成・維持の困難や、就労継続の困難といった生活上の困難があっても、障害の程度が軽度と判定されて十分な制度的支援が受けられない場合や、法制度上の障害者として認定されない場合も少なくありません。

(4) 支援が必要であることがわかっていても、活用可能な社会資源（サービス、人材など）が少なく、

実際の支援を行うことが難しい場合もあります。

これらの課題の解決に取り組むことは、ソーシャルワークの重要な課題です。社会生活上の困難を抱えながら生活している人々に対して、地域を基盤としたソーシャルワーク実践をどのように展開していくか、その具体的方法と体制整備について、研究を深めていきたいと考えています。

## ● 今後の目標・抱負

わが国の重要かつ喫緊の課題の一つは、生きづらさ、生活のしづらさに直面し、生きる希望や意欲を失いかけている「自殺に傾いた人」を発見して支援に取り組むこと、それが可能となる福祉アクセシビリティが確保された相談支援システムを構築することです。この課題に対し、相談支援従事者のスキルアップと、相談をつなぐ仕組みづくりに重点的に取り組みたいと考えています。

## ● 地域・社会と連携して進めたい内容

身近な人や関係者一人ひとりが、悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聞いて、必要な支援につなげ、見守る「ゲートキーパー」の役割を發揮し、地域の中で連携して支えていくことのできる相談支援システムを、各地域に構築していきたいと考えています。その具現化を図るための研修や、地域の課題を明らかにして対応策を検討する調査研究などに、地域住民や関係者と連携して取り組んでいきたいと考えています。

## ● これまでの連携事例・実績

地域でのメンタルヘルス講座、コミュニケーション講座、相談支援従事者を対象としたゲートキーパー研修、関係者のネットワーク会議・連携推進会議への参加、地域での調査研究など。